

ハート はじめました。

花き装飾コース 木下 愛心

(指導教員：村瀬 友衣)

1. はじめに

卒業制作のテーマ設定にあたり、就職先の方に相談したところ「今しかできないと思うことをやった方が良くのではないか」と助言をいただいた。そこで、過去の授業内容を振り返り、園芸装飾実習Ⅱで学んだディスプレイ制作について、特に興味を抱き、追求したいと思ったため卒業制作として取り組むこととした。国営木曽三川公園フラワーパーク江南(以下フラワーパーク江南という。)からディスプレイの制作依頼を受け、同級生の佐々木海力さんと2人でそれぞれ1作品ずつ制作することとした。

2. 制作内容

(1)打ち合わせ(1回目) 11月6日

フラワーパーク江南担当者に2つのデザインを提案し、ハートのフォトスポットの案に決定した。子連れの利用者が多いため、安全に撮影できるようなディスプレイにする必要があるとご意見をいただいた。

(2)打ち合わせ準備

打ち合わせ1回目の指摘事項を踏まえ、より安全性の高いデザインとなるよう再検討した。ハートのフレームは、外周の最大幅及び最大高をそれぞれ2.2mとし、サイズ感を現場で確認できるようダンボールで見本を試作した。

(3)打ち合わせ(2回目) 11月17日

フラワーパーク江南担当者へ修正したデザインを提示しながらイメージや使用資材の具体的な数量、金額などを説明し、デザインを決定した。試作したハートのフレームを実際に吊るしてみたところ想定していたよりも大きかったため、外周の最大幅及び最大高をそれぞれ2mに変更した。

(4)事前準備

ハートのフレームは加工がしやすく軽いため、スタイロフォームで制作することにした。1.8m×0.9mのスタイロフォームを3枚組み合わせ、2m×2mのハートを切り出すこととしたが、切断面に左右差が生じる位置で切断してしまった。左右差があると吊るした時にバランスが崩れ破損する可能性が高まると指摘を受けたため、新しいスタイロフォームで左右差が生じないように3パーツに切り直した。スタイロフォームのみでは強度が不足すると考えられたため、麻布とチキンネットを巻き強度を上げた。パーツを結合させて完成させた状態では搬入車両に入らないため、会場には分割した状態で持ち込むこととし、ハートの結合部以外に麻布とチキンネットを巻いた。麻布はスタイロフォームにボンドをまんべんなく塗り、貼り付けた。チキンネットはワイヤーで固定した。



(5) 施工

はじめにハートを制作した。3 パーツすべてを結合させた。結合面にはボンドを塗っておき、#18 ワイヤーを挿し込んで繋げた。さらに接合部分の表面には、2 パーツを繋げるようにかすがい状にした#18 ワイヤーを挿した。ワイヤーをスタイロフォームに挿す際には、ワイヤーにもボンドを付けてから挿すことで強度を上げた。麻布を結合部にボンドで貼り、上からチキンネットを巻いてワイヤーで固定した。はじめにスタイロフォームを覆うようにヒノキなどの平らな植物をワイヤーで巻き付けた。その上にブルーバードやヒムロスギなど様々な植物を組み合わせで作った小さなスワッグを付け、立体感を出した。ハートのフレームは会場に備え付けの美術バトンにワイヤーで吊り下げる形で固定した。上部 4 か所をワイヤーで吊り、ハートの底面が地面に接地する高さに調整した。下部は 2 か所をワイヤーでフロアパネルと繋げることで、なるべく揺れないようにした。電飾はフレームの幅に合わせて波線状に配置し、グリーン of の #26 地巻きワイヤーで固定した。電飾コードにはオーナメントを付けた。背面はチキンネットが見えないよう新聞紙を貼り、さらに上から赤い布、赤いリボンを背面と側面に貼り付けて、新聞紙を隠した。



ハート周りにプレゼントボックスや雪だるまなどを飾り、触っても動かないようにワイヤーでフロアパネルに固定した。ハート型クッション及び不織布のプレゼント袋は、手に持って撮影できるよう固定しなかった。



3. アンケート結果

「ディスプレイは満足したか」という設問は、「とても良い」、「良い」が 88%を占め、高い評価を得られた。一方で「普通」も 12%存在するため、より印象に残る演出を検討する必要がある。また、家族単位での来場が多いことが明らかとなり、幅広い年代が一緒に楽しめる場として利用されていると考えられる。

4. まとめ

初めて単独でディスプレイを制作してみて、自分の知識の少なさや未熟さを知った。たくさんの人にアイデアやアドバイスをいただき完成させることができたと思う。現場で施工する中で、学校でもできた作業や、必要のない作業があった。作業スケジュールを綿密に計画していたらもっとスムーズに進んでいたと感じ、しっかり計画を立て、実行することが大切だと思った。アンケートの結果では高い評価を得ることができた一方、厳しい意見もいただき、たくさんの方の目に留まるインパクトのある作品制作が大切だと感じた。来園者がいる公園では特に、計画性・安全性の重要性を強く実感した。この経験を踏まえ、素材選びや固定方法を見直し、来園者が安心して鑑賞、撮影ができる構造について改めて検討してみたい。反省点も多く見つかったが、それらは今後大規模装飾を行う際に活かせる貴重な学びである。この経験を活かし、今後は時間配分や安全対策を意識し取り組みたい。